

令和7年度奈良県性教育研究会研修会の報告

奈良県性教育研究会
会長 高田 恵美子

1 はじめに

社会環境の変化等に伴い、性情報の氾濫など、子どもたちを取り巻く性の問題が多様化・複雑化しています。奈良県性教育研究会では、「性」を視点にしながら、すべての子どもたちが、いきいきと自分らしく生きていくことを目指した教育や支援について取り組んでいます。特に、豊かな人間関係を構築することが性教育の基盤であり、子どもたちのみならず、支援者自身も、他者との健全な関係構築が求められます。そこで、その健全性を支える一つの重要な柱であるバウンダリー（境界線）について理解し、性教育実践に活かすための研修会を開催しました。

2 研修会報告

1) 開催概要

日時：令和7年10月4日（土）

13：30～16：30

場所：亀の井ホテル奈良 多目的ルーム

対象：教職員、医療・看護関係者、地域医療・保健関係者、保護者、学生、相談員等

講演：「性について考える～バウンダリー（境界線）を視座として」

講師：関西学院短期大学保育科専任講師
小山 顕



2) 講演内容

バウンダリーは人間関係において重要な概念であり、性に関するつながりを形成するための

基盤となる。アタッチメント（愛着）形成のその先には、適切な距離感を保ち人とつながる力の育みがあり、バウンダリーがそれを支える。

バウンダリーには、適切な距離感を保つ機能、自分を守る機能、良いものを受け入れる機能がある。健全な人間関係を築くためには、バウンダリーの理解と実践が不可欠である。性教育にバウンダリーの学びを加えることで、誤解や偏見を減少させ、健全な人間関係を築くスキルを身につけることができる。子どもたちが年齢に応じた方法でバウンダリーについて学ぶ機会を提供することが重要であり、支援者自身も自らのバウンダリーを見つめ直し、他者との関係を大切にすることが求められる。

3) 参加者の感想（抜粋）

- ・「境界線がある環境」が本当の意味での「自由がある環境」だという話が印象的でした。
- ・「バウンダリー」は最近ホットな話題で、とても気になっていた内容でした。NO が言えない子、境界線がわからない子など、本校でも気になる児童がたくさんいます。子ども達がバウンダリーについて理解する事ができるよう、養護教諭として学びの機会をつくりたいと思いました。
- ・対人関係や問題行動が起きると、対象者の生活態度や環境に着目して考えますが、ボンディングやバウンダリーが満たされていないという点にも着目して、支援を考えていきたいと思いました。「NO」と言っても良い、YES と NO の両方を言える関係が健全な人間関係であると学びました。

3 おわりに

講演後は教員や助産師など多職種の参加者によるグループワークを行い、性教育やバウンダリーについて情報交流ができました。また、講師の小山先生への質問も多く寄せられました。

本研究会は世代交代や会員数の減少などの課題がありますが、開会行事での全国性教育研究団体連絡協議会の野津有司理事長の貴重なご助言を今後の活動に生かしていきたいと思います。